

わくやの

WAKUYA
Town in Brief

涌谷町の
素敵な暮らしの
あれこれ

涌谷町勢要覧

いは





パノラマ
VRを見る



Wa Ku Ya Graph - 春

馬がはねる 人が走る
町をピンクに染め上げる
桜と天守閣に見守られ
涌谷の春が始まった

「この**ばんば**大会が春の最高潮なんだ」――。
居並ぶ愛馬たちの勇姿に、引き手の気持ちの高ぶりも伝わってくる。古来より馬と人との関わり
の深かった涌谷町で行われている「東北**ばんば**競技
大会」は、桜花爛漫の風物詩。数百キロから1ト
ンもの重りを載せたソリを引く馬を、男たちが叱
咤激励しゴールへと導く。立ちほだかる土坂を、
息を荒らし土を飛び散らせて駆け上がる馬と男た
ち。その迫力と人馬の絆に、観衆からは惜しみな
い拍手が贈られる。待ちわびた春、喜びに沸き立
つ人々の力強い祭りだ。



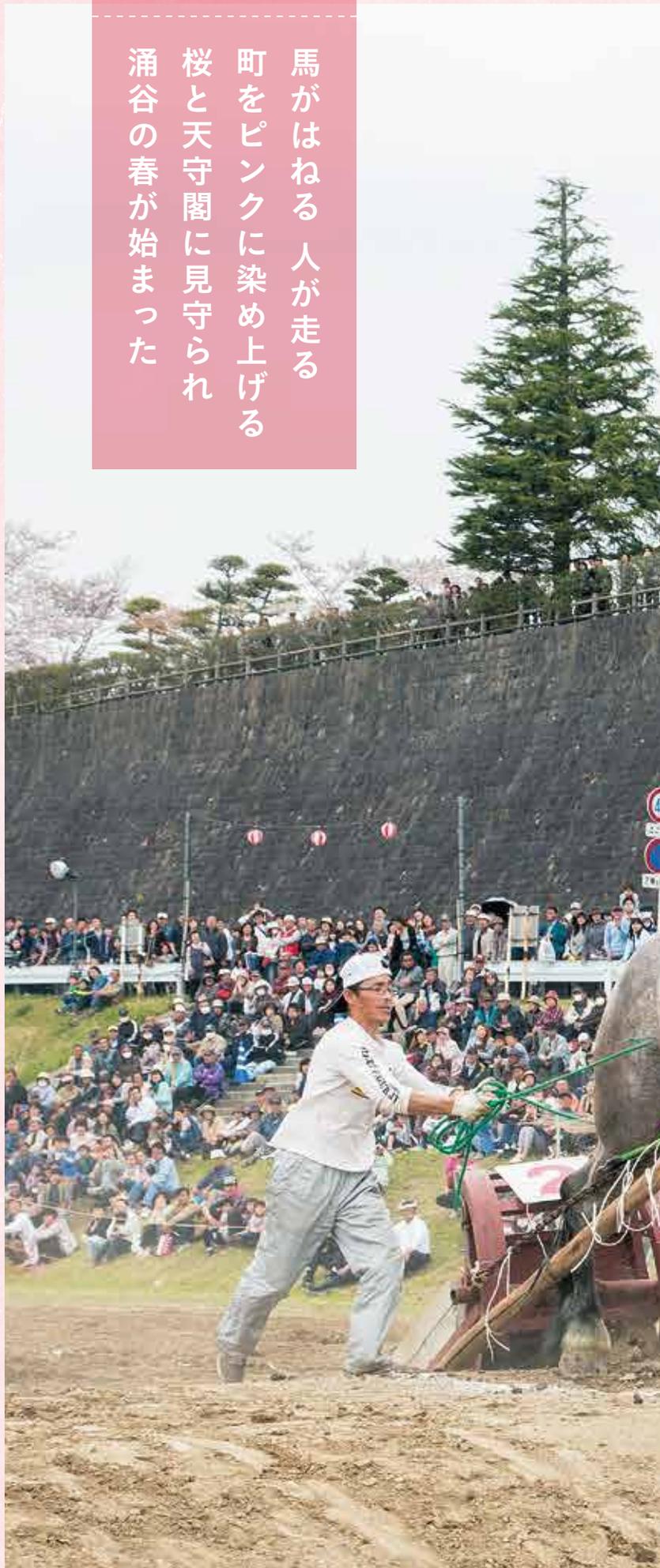
こんぼうじ
籠峯寺かたくりまつり

自生種から少しずつ増やしたカタクリが、
籠峯寺境内の北側斜面を可憐に彩ります



つるしびなまつり

子どもたちの幸せを願い、1000体以上が飾られます
籠岳山実相坊で開催



ソイヤーサー！ソイヤーサー！

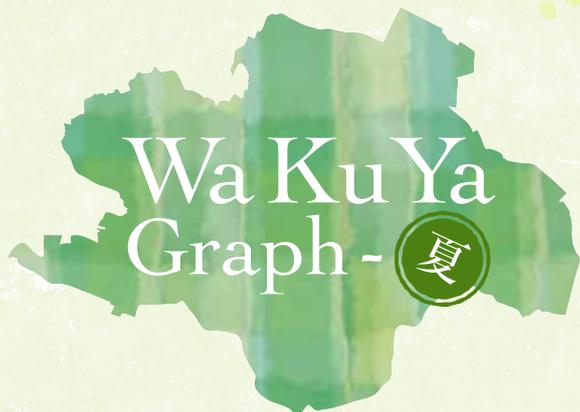
笛の音と拍子木の囃子に合わせ、「奥州涌谷神輿会」が商店街を練り歩く。いなせな半纏に身を包んだ祭り衆の神輿に従うのは中学生神輿と子ども神輿。新生涌谷中学校の有志による手づくり神輿は城山公園の史料館を模したもの。人々の熱気と笑顔も乗せ、「わくや夏まつり」へと動いていく。薄闇が迫ると通りに出現した一夜限りの大絃燈籠に明かりが灯り、盆踊りが始まる頃、夜空に打ち上がる大輪の花火が、涌谷の夏のクライマックスだ。



伊達かっぱの里まつり
八雲神社境内とくがね創庫前ふれあい広場で
開催される、町民中心の手づくり感が楽しいまつり



涌谷町釣り公園へら鮎釣り大会
毎年100人前後の太公望が競う人気の釣り大会



担ぎ上がった神輿と共に
祭り衆の笑顔が弾ける
人々の熱気を集めて
さあこの瞬間を楽しもう



パノラマ
VRを見る

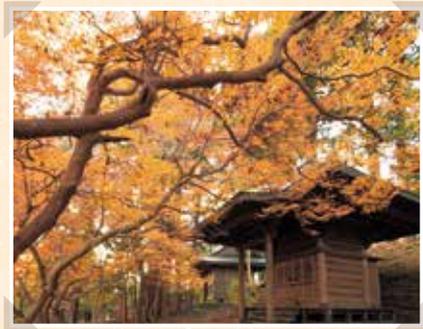


へ奥州浦谷の^{のの}篁岳^{だけ}さまは山子^{やまこ}繁昌^{はんじやう}の守り神

昔から浦谷の人々が山仕事や野良仕事の合間に口ずさんでいた山唄は、今や全国の民謡愛好家が唄い継ぐ名曲に。勤労福祉センターで行われる「秋の山唄全国大会」には、北は北海道から南は九州までの出場者が集まって自慢の喉を競い合う。篁岳山篁峯寺への山唄奉納は、大会優勝者だけに与えられる晴れ舞台。読経と鐘の音、かがり火燃える境内にろうろうと響き渡る五穀豊穡への感謝と祈り。山唄にも唄われた篁峯寺の神々も、唄声に聞き入っているようだ。

紅葉の篁峯寺へ捧げる
五穀豊穡への感謝と祈り
唄い継がれてきた
「秋の山唄」が響き渡る

Wa Ku Ya Graph - 秋



篁峯寺白山堂ドウダンツツジ
篁峯寺白山堂前に植えられたドウダンツツジが赤や橙に紅葉。見頃は11月中旬～11月下旬です



篁岳白山豊年踊り
明治時代の種時神楽を元に復活させた伝統芸能



パノラマ
VRを見る







パノラマ
VRを見る



黄金山神社の冬
日本初産金の地である黄金山神社。木々も拝殿も雪化粧した境内は厳かな雰囲気包まれます



わくや発食の町民まつり
涌谷町の「美味しいもの」が一堂に会すイベント

Wa Ku Ya Graph -

「御弓神事、はじまります」。

宝亀元（770）年創立と伝わる篁岳山白^{はく}山堂で、千年余にわたり受け継がれる白山神事。大晦日からひと月近くにわたり行われる行事は、この御弓神事で終わりを迎える。厳かな宣誓のあと射場に2人の稚児が進み、一山の僧が見守るなか12本の矢が放たれる。「的を射れば晴れ、上にはずれれば風が強い」―謂れは神聖、見守る群衆からは的を射るたび歓声と拍手がわき起こる。古来から変わらぬ祈りの姿がここにある。

稚児の手に添えて放つ
弓矢が的を射抜く
一年の平安と豊穡を占う
古式ゆかしい白山神事



発刊にあたり

涌谷町は、天平21(749)年に我が国において初めて金を産出させ、奈良東大寺に金900両(13kg)を献上し、見事盧舎那仏の建立へと大きく貢献。時の天皇である聖武天皇は、このことに驚喜し、年号を「天平感宝」へと改めるほどのドラマが、涌谷町を舞台に巻き起こりました。以来1200有余年、昭和30年7月に箕岳村との合併により現在の涌谷町が誕生し、平成27年で60年の節目を迎えました。

この60年の歩みは、多くの先達の英知と努力の賜物であり、緑と歴史に恵まれた活力ある町を目標に今日まで着実に歩んできました。

平成23年3月11日に発生した未曾有の大災害・東日本大震災では、涌谷町におきましても、かつてない被害と長期にわたる不自由な日常となりましたが、地域住民相互で助け合い協力し、苦難を乗り越える大きな力となっていたことで、震災前の姿を取り戻すことができました。

今後、本格的にはじまる「地方創生」に向け、当町においても「地域特性を活かした魅力あるまちづくり」を推進するための5年間の「涌谷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、そして、向こう10年間のまちづくりを強く進めていくために「第五次涌谷町総合計画」を策定いたしました。これからの将来像「黄金花咲く交流の郷わくや ―自然・歴史を活かした健康輝くまち―」を掲げ、心から住んで良かったと思える魅力あるまち・活力のあるまち涌谷町を築いてまいります。

この要覧は、町民の皆さんの暮らしをおして、現在の涌谷町、そして、黄金に輝く未来の涌谷町に向かう姿を紹介するものです。

涌谷町をご理解いただく一助となれば幸いです。

涌谷町長 大橋 信夫



わくやの

いろは

WAKUYA
Town in Brief

涌谷町勢要覧

CONTENTS

Wakuya Graph 春夏秋冬	01
発行にあたり	08
CONTENTS	09
わくやのいろは「い」	10
わくやのいろは「ろ」	14
わくやのいろは「は」	18
万葉集北限の里	22
涌谷の魅力大博覧会	24
総合計画体系	26
涌谷町基本計画	28
涌谷町ワクワクマップ	30
涌谷ヒストリー	32
行政・議会	33



スマホやタブレットでQRコードを読み取ると
パノラマVRや動画を見ることができます。
*このサービスは予告なく終了する場合があります。



わくや
の
いろは



医療と福祉が充実 子育ても安心なまち



町民一人ひとりが元気で
健やかに暮らせること。

涌谷町では昭和59年以来
「健康と福祉の丘のあるま
ちづくり」事業に取り組
み、町民医療福祉センター
（国民健康保険病院、健康
福祉センター、介護老人保
健施設等の合築）や研修
館・世代館・健康パークを
整備して総合的な健康づく
りを進めてきました。町民
医療福祉センター内には地
域包括支援センターもお
き、予防から治療、在宅ケ
アまでをトータルで提供す
る地域包括医療・ケアシス

テムづくりにも取り組んで
きました。

平成27年度に改正された
介護保険制度では、地域包
括ケアシステムの実現が求
められています。町でも
「涌谷町高齢者福祉計画」
「介護保険事業計画」を策
定、また介護予防と日常生
活への支援を目的に「介護
予防・日常生活支援総合事
業」も創設しました。住み
慣れた地域で、その人らし
い自立した生活を営めるよ
う、全力で取り組みます。
未来を担うのは子どもた
ちです。町では「安心して

子どもを産み、育てること
ができる町づくり」を基本
理念に、平成16年に「涌谷
町安心子育て支援プラン」
を、平成17年には「涌谷町
次世代育成推進計画」を策
定し、子育て支援を行って
きました。平成27年にはこ

れらの取り組みを進化させ
「涌谷町・安心子育て支援
プラン」を策定。保育料の
負担軽減や預かり保育の充
実、また子ども医療費助成
事業なども行っています。
家族と一緒に、町ぐるみで
子どもたちの成長を支えて
いきます。



1. 町民医療福祉センターは健康と福祉のシンボル
2. 町を築いてきた先輩方に心から敬意を
3. 健やかな成長を育む幼児教育施設
4. 通所サービスも充実
5. 母子ともに安心できる健診体制が確立



地域住民の交流も育む 涌谷ならではの 健康づくり

平成25年度、町では従来の健康福祉課を、健康課と福祉課という2つに再編しました。

この「再編」、実は行政内にとどまりません。平成元年から取り組む「涌谷町健康推進員制度」は、町からの委嘱を受けた住民が「健康推進員」として検診や健康教室など、町が進める健康施策に基づく活動に協力しながら、地域の健康づくりを担うもの。任期は2年で、終了後には「地域のひととの交流が生まれた」「自分の健康を振り返ることができた」など期待以上の声が寄せられるそうです。

乳幼児健診でも成長に合

わせた保健師、管理栄養士、歯科衛生士による育児相談のほか親同士の仲間づくりを意識した機会を設けています。「子どもたちの健康はもちろんですが、お母さんの孤立化も防げれば」と、健康課・健康づくり班の班長をつとめる仙石寛子さんは、細やかな活動の裏に込められた思いを話します。

人間関係が希薄化し「お節介」が敬遠される時代。涌谷町の健康推進員制度は、住民の健康だけではなく絆を保つことにも繋がっています。「それが涌谷の健康づくりの根っこ」と、仙石さんは笑顔を見せてくれました。

涌谷町町民医療福祉センター
健康課 健康づくり班
技術主幹兼班長
保健師
仙石寛子さん



健康の基本は、
心身のバランスを保つこと。
赤ちゃんからお年寄りまで、
すべての世代の健康づくり
取り組んでいる涌谷町では
交流やふれあひも
健康維持には欠かせないと
住民との協働にも力を入れています。



▶インタビュー動画を見る

子育て支援サークルで ママたちの ネットワーク作り

子育て支援サークル
「おひさまスマイル」
子育て支援コーディネーター
齋藤祐子さん

横浜出身の齋藤祐子さんが、結婚を機に浦谷町に移り住んだのは今から7年前。「嫁ぎ先が農家で、当時は家族以外で会うのは郵便屋さんくらい」と笑いながら振り返ります。子育て支援コーディネーターとして、サークル「おひさまスマイル」も運営する現在のアクティブな姿からは、ちよびり意外な感じがします。

活動はカラーセラピーやクッキングなどの託児付講座ほか町の教育事業での託児支援などいろいろ。3年前からは独自事業としてベビートミックやキッズリトミックの「音育プロジェクト」も開催、活動発表の場として開く年1回のコンサートにはプロの音楽家も参加するなど、大きな注目を集めています。「基本はスタッフが楽しいことをするだけ」と祐子さんは自然体。なにより、「サークルを通して色々な事を相談できる仲間が出来る事が毎日の原動力です」と微笑みます。ママ達によるママ達のための活動は、どんどん進化し、広がっています。



充実した子育て支援制度と、地域の方々の理解のなか、さまざまな子育て支援団体が活動する浦谷町。それは少子化や核家族化などによる子育て世代の孤立化を防ぐだけではなく、女性の元気や人々の交流も生み出しています。



▶インタビュー動画を見る

わくや の いろは ろ

ロマン 理想を実現できる まちづくり



涌谷町を支える産業のひとつである農業。現在は稲作を中心に野菜・畜産などの複合経営が主体で、小ねぎやほうれん草については二大産地を形成しています。また、地域の女性農業者からの要望で誕生した、わくや天平の湯に併設した農産物直売所「黄金の郷」は消費者からの支持も増え、年々販売額が増加しています。

市街地は涌谷伊達氏の城下町として、古来より交通の要衝でありました。道路は石巻街道（国道108号）や涌谷街道（国道346号）が交わり、かつては江合川舟運で発展した歴史も刻まれています。これらアクセスのしやすさは企業誘致にも生かされ、アルプス電気をはじめ電気機械器具製造業等がこれまでに進出しています。また近年、大規模な自動車産業や電子産業などが宮城県内に進出したことから、関連企業の涌谷町への進出はもろろん既存企業の受注アップも期待されています。

農業では米などの有機栽培や畜産振興、施設園芸の拡大と品質向上にくわえ、加工・販売、六次化を推進し、消費者交流や地産地消の促進に努めます。また、涌谷町に何度も行ってみた、食事や買物をしたいなど魅力あるまちづくりを目指し、大型ショッピングセンターの開設をはじめ、市場場産品や郷土料理の「おぼろ豆腐」などのブランド化を進め、城下町の歴史的資源を活用した中心市街地の活性化にも取り組めます。

1. 黄金色に輝く稲穂の刈り取り作業
2. 暮らしに便利な大型店
3. 通勤通学でにぎわうJR涌谷駅
4. 誘致企業のアルプス電気涌谷工場
5. 町内の産業が一堂に会する「わくや産業祭」



1



2



3



4



5

涌谷の 大地と環境が作る 高品質な特産小ねぎ

涌谷の広大な平地に連なり建つビニールハウス群。あまりにも数が多過ぎて、全体を把握するのも容易ではありません。

「現在は小ねぎのハウスが56棟、みず菜が30棟。年間を通して出荷できるようローテーションして使います」。それらハウスを回り、

生育や作業の様子を確認する氏家靖裕さん。有限会社氏家農場の代表取締役として、品質と安全性にこだわった農産物の栽培に取り組んでいます。

平成11年に創業、涌谷町特産の小ねぎの生産と販売を開始した氏家農場。平成18年には法人化を果たし、

翌年からみず菜の生産も始めました。現在は小ねぎとみず菜を中心に、露地で青ネギを栽培するほか水稲も手がける複合経営。ハウス栽培で通年出荷する小ねぎとみず菜は、市場や県内スーパーなどから高い評価と信頼を得ています。

大規模経営でありながら、氏家さんが一番こだわるのは土づくり。完熟堆肥、有機肥料を用いて土壌改良を行い、理想的な生育環境を保ちます。「基盤整備など町からの支援は励みになった」と氏家さん。食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられるJGAP認証も取得、販路開拓に前向きです。

農業生産法人
有限会社氏家農場
氏家靖裕さん



地域の気候や自然を生かして営まれる農業。農産物の品質や安全性はいうまでもなく、これからは市場ニーズに合った農業経営への取り組みが求められていく時代です。涌谷にはすでに、そんな先進事例があります。



▶インタビュー動画を見る

涌谷町だから 始められた 障害者の仕事場づくり

東日本大震災の発生から間もない2011年6月、

町内桑木荒に開店した「涌谷とうふ店」。営むのは仙台市で老舗豆腐店を営む森新一さん。「江戸時代から続く涌谷のおぼろ汁を守りたかった」と涌谷出店の思いを語ります。

全国の障害者福祉施設で、豆腐事業の立ち上げに関わってきたという森さん。涌谷とうふ店も、福祉サービスを提供する「株式会社まちの豆腐屋プロジェクト」が運営する障害者就労支援A型事業所のひとつ。「私たちの願いは障害者の雇用と仕事場づくり。そういう意味でも、健康や福祉に取り

組む涌谷町はとても、風通しのいい町」と語ります。

平成27年に開所した「涌谷・放送字幕制作センター」は、同社が取り組む新プロジェクト。障害者支援が縁となりウオルト・ディズニージャパンと契約、テレビアニメの聴覚障害者用字幕制作を手がけています。平成26年から技術習得に取り組み、制作ルールなど厳しい条件をクリアし、翌3月には字幕初制作のアニメ作品が放映されました。「センターは人がたくさん集まるきっかけ作り。涌谷のように、全国にも障害者の就労の場が増えればとてもうれしいです」と森さん、最高の笑顔です。

株式会社
まちの豆腐屋プロジェクト
森新一さん



「涌谷名物おぼろ汁」と「テレビアニメ」一見して何の関係もない、この2つの物事が結びつき、町に新しい風を起こしています。それは障害者と健常者、地方と都市とを繋ぎ、未来を描く、次の時代の「働き方」でした。



▶インタビュー動画を見る

わくや のいろは ぱ



はつらつ輝く 人間力を育むまち



涌谷町が目指すのは、子どもから高齢者まで誰もがいつでもどこでも生涯を通じて学び続けられる環境づくり。そこで、様々な生涯学習の機会や情報提供の充実を図りながら、学んだ成果をまちづくりに反映できるように仕組を整えていきたいと考えています。特に子どもたちがよく遊び、様々な体験を行い、自立に向けて生きる力を得られるように家庭や地域、学校の整備と授業内容の充実を図ります。

平成27年度には新生涌谷

中学校が開校し、翌28年度には箕岳地区の2校を統合した箕岳白山小学校が開校、教育環境の改善が進んでいます。学校教育に加えさらなる学びの場を充実させるため、歴史や伝統文化などの継承と保存、趣味やスポーツなどの地域クラブ活動の促進も図っていきます。

教育だけではありません。ここ涌谷町には、涌谷スタジアムや涌谷町勤労福祉センター（体育館・テニスコート）、B & G 海洋センター（体育館・プール・武道館・艇庫）

などがあり、体育協会やスポーツ少年団の活動もさかんです。スポーツは心と体の健やかな成長に欠かせない活動と考える町では、スポーツ人口の増加も目指しています。また、公民館での活動や自主的な趣味・スポーツなどの文化活動、伝統芸能やまつり、イベント等のボランティア活動などの住民活動も活発に行われています。

教育、文化、スポーツ。活発な活動の中から心豊かなかが生まれ、将来への希望も育まれると考えています。



1. さまざまな大会が行われる涌谷スタジアム
2. 文化活動や発表の場も多い
3. 全国大会出場の涌谷第一小マーチングバンド
4. スポーツ活動も盛んです(わくや空手)
5. 新生涌谷中学校の英語授業風景



1



2



3



4



5

体力づくり、 作法や精神 空手から学ぶ事は多い

夕刻、町の武道館に集まってきた子どもたち。空手の道衣に着替えると早速、形や組み手の練習が始まります。抜ぎん出て素晴らしいのは、涌谷中学校の生徒たち。「彼らは全中(大会)への切符を手にした選手。平成27年8月に香川県で行われる全国中学生空手道選手権大会へ出場します」。説明をする黒澤哲哉さんも誇らしげ。

2020年の東京オリンピックの正式種目になる可能性のある空手。黒澤さんも「近年は陸上やサッカー競技で行われているような身体能力を上げる練習メニューを取り入れている」とも話します。でも一番は空手道の基本である形や作法、なにより武道として守るべき精神を学んで欲しいと願っています。

「やらされているのではなく、自分から『強くなりたい』と思えた時に人は変わる。全国大会などを経験した子どもたちは、そんな成長がはつきりわかります」。指導者として最もやりがいを感じるその瞬間を目指して、練習にも熱が入ります。

わくや空手
指導者
黒澤哲哉さん



スポーツ少年団の活動がさかんな涌谷町。競技場や運動場には、元気な声が響いています。体を動かすこと、仲間づくりの楽しさなど学校での学びとは違う出会いや発見が子どもたちを豊かに成長させていきます。



▶インタビュー動画を見る

2つのパワーを結集して 涌谷町唯一の中学校 新生「涌谷中学校」開校

平成27年3月、涌谷中学校と籠岳中学校が閉校し、同年4月、新生「涌谷中学校」が開校しました。

「新しいスローガンは『一致団結つながる手と手一つの輪』。2つの中学校が手を結び、ひとつの輪になっていくことが目標です」。力強く宣言するのは、閉校した涌谷中学校出身の熊谷陽希さんと閉校した籠岳中学校出身の浅野風都さん。ふたりは会長そして会長代行として、新設した涌谷中の生徒会を引っ張っています。

流を重ねてきたからです。

2人は野球部に所属し、同じチームで最後の公式試合に出場し、宮城県ベスト16の強豪相手に惜敗しました。

「先制点は自分で、ラストバッターは陽希。泣いている陽希を『高校からはライバルとして上を目指そう』と励ましました」。そう話す浅野さんの目標は甲子園出場。一方、熊谷さんは、町の役に立つ仕事がしたいと夢を描きます。

「閉校した涌谷中が大崎(地区)の雄だったら、新設した涌谷中は全国の雄になる」。目を輝かせて話す2人。中学生たちの元気は地域や社会へも広がり、町全体の活力を生み出します。



新生涌谷中学校
平成27年生徒会会長代行
浅野風都さん



新生涌谷中学校
平成27年生徒会会長
熊谷陽希さん

涌谷中学校と籠岳中学校。ふたつの学校は平成27年、ひとつの学校に生まれ変わりました。学びの環境、スポーツや文化活動：変化する生活に柔軟に対応した生徒たち。その眼差しは、新しい未来に輝いています。



◀インタビュー動画を見る

万葉集北限の里

東の空がうつつすらと紫に染まり

やがて高い杉の梢から

刻一刻と明るさを増してきた

静まり返っていた境内が

光の中に浮かび上がる

朝陽に照らされ

まばゆいばかりに輝く時空は

はるかなる時を瞬時に超えて

いにしえの世界へといざなう

ここは天平の黄金の産地

みちのくの栄華が

厳粛な明けの空に光暈に燃え上がる

夢とロマンを深く包み込み

再び黙して鎮座する

はるかなる時の光彩よ

過去から未来を透過する

一条の光となって

この地に永遠の輝きを放て



天平15(743)年に発布された東大寺の大仏建立の詔。しかし鍍金用の金だけが不足する中、天平21(749)年に陸奥国守百済王敬福が朝廷に黄金九百両(約13キログラム)を献上しました。産出地の小田郡とは涌谷周辺であり、砂金が採れた山は黄金山神社として祀られました。周辺からは「天平」と刻まれた瓦なども出土し、昭和42年には国の史跡指定に。日本初産金の地は、ここ涌谷だったのです。

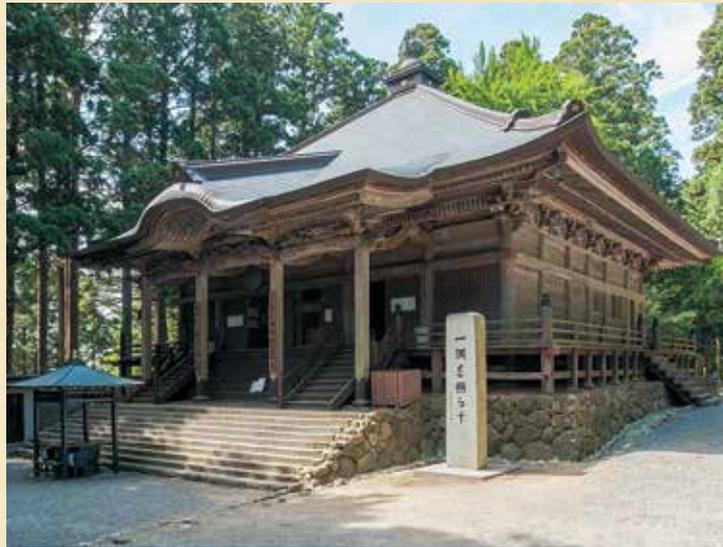
すめら玉の御代栄えむと
東なるみちのくに金花咲く

天平感宝元年五月十二日、
越中国守の館にて大伴宿祿家持之を作る。
『万葉集』卷十八・四〇九七



陸奥の産金に歓喜した時の聖武天皇は感謝の詔を発布し、歌人大伴家持が「陸奥国より金を出せる詔書を賀ぐ歌」を詠みました。これは万葉集卷十八におさめられており、陸奥の地を詠んだ歌としては涌谷町より北の場所がないことから、ここが万葉集北限の地とされています。境内に建つ万葉歌碑は、昭和29年9月、文学博士山田孝雄氏の揮毫により建立されたものです。

天をつく大姥杉に抱かれ 深閑としてたたずむ 天台宗の古刹



古来より殺生禁断、女人禁制の聖地とされ、大門から一步踏み込めば仙台藩の役人でも罪人を捕らえられなかったと伝わる篁岳山

標高236メートルの篁岳山に鎮座する天台宗無夷山篁峯寺。篁峯寺とは一山の総称で、篁岳観音堂を中心に白山堂ほか15を数える坊が山中に存在します。

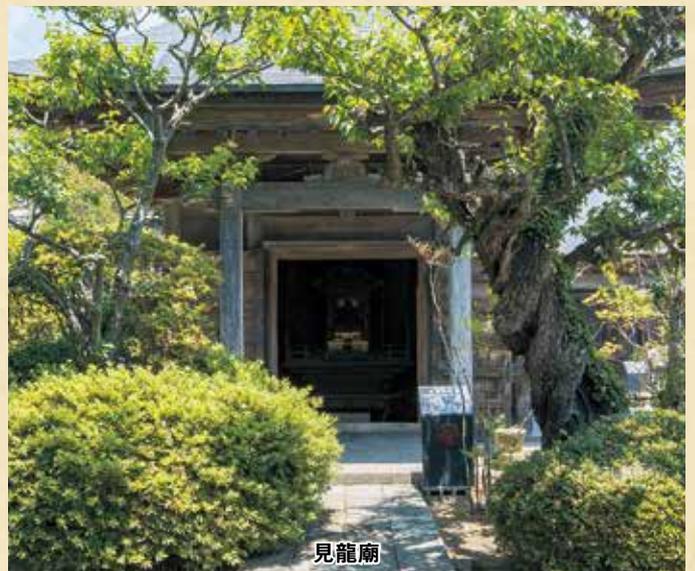
篁岳観音は大同2(807)年に坂上田村麻呂の建立と伝えられ、奥州三十三霊場第9番の札所として有名。現在の本堂は嘉永4(1851)年に再建されたもので、本尊の十一面観音「閻浮壇金立仏」は天平の産金との関わりなど、史実に興味深いものがあります。この篁岳観音と、石巻の牧山観音、松島の富山観音は奥州三観音と呼ばれ、3年続けて三観音を参拝すると必ず望みごとが叶うといわれ、巡拝者が訪れます。

WAKUYA HISTORY SPOT



「盡忠」を貫いた宗重公

仙台藩伊達家で横行した悪政を正すべく、幕府に訴えた涌谷伊達家四代安芸宗重。この「寛文事件」で、宗重は間もなくこれを恨む原田甲斐の凶刃により江戸で倒れました。この功績をたたえるべく寛文11(1671)年に整備されたのが見龍寺であり、寛文13(1673)年に霊屋(墓)が築かれました。墓所は二間四方、向拝つきの総ケヤキ素木造りで、堂内には衣冠束帯姿の宗重坐像が納められています。堂の周囲には涌谷伊達家の墓石も並んでいます。

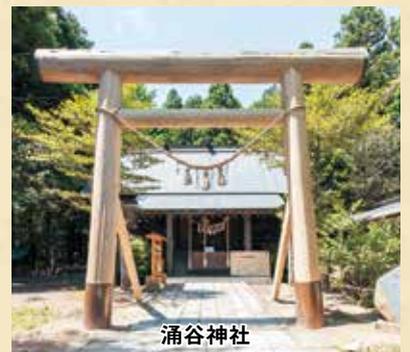


見龍廟



妙見宮

墓所は天正19(1591)年に巨理重宗が京都の妙心寺の梁岩和尚を招き、円同寺として開山。寛文事件の伊達安芸宗重の死去により見龍寺と改称、境内を整備して築かれました



涌谷神社

天平ろまん館

日本で初めて黄金が産出した黄金山。一帯は「わくや万葉の里」として整備されており、その入口に建つのが「天平ろまん館」です。館内には「天平産金」をテーマにした歴史館ほか、手軽に砂金採りが体験できる体験場や涌谷の特産品が揃う直売所、郷土料理のおぼろ汁が味わえるレストランなどがあります。

ろまん館から黄金山神社に続く遊歩道は万葉歌碑や万葉の植物を見ながらの散策が楽しめる「くがね庵」も。最奥に立つ黄金山神社には日本北限の万葉歌碑が立ち、杉木立の中で歴史ロマンに浸ることができます。

外観は天平時代の寺院をイメージ。ゆるやかな基壇や鮮やかな朱色の丹塗りの柱、広い回廊が1200年の昔にタイムスリップしたかのよう

魅力 見会



わくや天平の湯



平成2年の掘削でわき出したお湯は無色透明で臭気もない低張性アルカリ性冷鉱泉。神経痛をはじめ筋肉痛、関節痛などに効くといわれます

洋風・和風ふたつの浴場が自慢。クアハウス型の洋風大浴場「ヘルススパ」には打たせ湯、寝湯、季節風呂、サウナなどがあり、疲労回復や腰痛など症状に応じた入浴法の選択が可能。和風の「リフレックススパ」は大浴場を中心に露天風呂、ひのき風呂やサウナが完備されています。

浴場は日替わりの男女入れ替え制で、2階にあるため涌谷の田園風景を眺めながら入浴できます。ほか小劇場や交流室、研修室なども備え、涌谷町の進める健康づくりと交流の拠点になっています。



涌谷の 大博

おぼろ豆腐

江戸末期、関西から来た僧侶がお寺のわらじ脱ぎ場になっていた豆腐屋に作り方と食べ方を伝授。ふんわりと柔らかく、口の中に入るとトロリととろける繊細な逸品

小ねぎと並ぶ涌谷町の特産品で、パリッと瑞々しい食感の水菜はビニールハウスで栽培。ほうれん草はハウスほか露地でも栽培されています

おぼろ汁

柔らかいおぼろ豆腐をシイタケや油揚げなどが入ったとろみ汁と一緒に煮込みます。元は精進料理でしたが、優しい味わいで町の名物になっています

みず菜

小ねぎ

涌谷竜文塗

涌谷町は関東以北最大の生産量を誇る小ねぎ産地。土づくりと水にこだわって作られており、香り・色・味ともによく、シャキシャキとした歯ごたえも美味しい

ほうれん草

古来から秘宝とされてきた墨流しの技法を改良して制作された漆器です。流れるような文様と色彩は熟練の職人によるもので、意匠の妙が光ります

涌谷要害

籠岳丘陵を背に北東には深い谷をかかえ、前面は江合川の流れによって守られる天然の要害。天正19（1591）年に伊達政宗の命により涌谷伊達家（巨理家）が入城し、涌谷伊達家の居城として整備されました。以来明治維新を迎えるまで地域の中心として機能し、現在は町の公園として親しまれています。

石垣の上に立つ太鼓堂は天保4（1833）年の再建と伝えられ、仙台藩内に残る楼閣建築として大変重要な遺構です。天守閣は町のシンボルとして新たに建築されたものです。



居館は明治5年に取り壊され、詰門付近の石垣と隅櫓に往事の名残を見ることができます。天守閣の内部は史料館になっており、涌谷伊達氏の史料などが展示されています



の郷 わくや

した健康輝くまち

第五次涌谷町総合計画

【計画期間】平成28～37年度



(1) 交流人口の拡大

本町は、自然系土地利用が町域の7割超を占めており、箕岳山等の豊かな自然環境に恵まれた地域です。また、日本初の産金地であるという歴史を有し、国の史跡に指定されている「黄金山産金遺跡」等の歴史・文化資源が見られます。一方で、人口減少・少子高齢化や地域産業の停滞が進行しており、まちの活力創出に向けた取り組みが求められています。そのため、豊かな自然や歴史・文化資源をはじめとした涌谷の魅力を最大限に活かしながら、六次産業化や農商工連携による特産品等の開発や、地域資源を活かした魅力的な観光交流や効果的な情報発信を行い、町外からも多くの人が訪れるまちづくりを進めて、交流人口を拡大し、地域産業の活性化につなげていくことが求められています。

(2) 健康医療福祉の推進

本町では少子高齢化が進行していますが、「健康寿命100歳をめざす町」宣言を行うなど、今日まで「健康と福祉のまち」を標榜し、まちづくりを進めています。そのため引き続き、高齢者はもとより全ての町民が地域社会の中で、健康で元気な生活が送れる地域社会が求められています。また、充実した医療・介護・福祉施設を活かし、安心して元気に暮らせる健康長寿に向けた取り組みを進めることに加え、健康と食の情報発信し、人と人のつながりや交流を促進していくことが求められています。

(3) 子育て支援・教育の充実

本町では子育て支援事業や子ども医療費助成等を行っています。今後持続的なまちづくりを進めて

黄金花咲く交流

— 自然・歴史を活か

基本構想 [平成28～37年度]

まちの将来像、まちづくりの基本的な考え方、数値目標、土地利用構想、施策の大綱、まちづくりシンボルプロジェクトを明らかにし、基本計画を方向付ける計画

前期基本計画

[平成28～32年度]

後期基本計画

[平成33～37年度]

基本構想を実現するために、部門ごとに、現状と課題、計画の内容を明らかにし、実施計画に基本方針を与える計画



いくためには、若い世代の定住化を進め、子どもを産み育てやすい環境づくりや子育て支援を更に充実させていくことが必要となっています。また、次代を担う子ども達が涌谷の歴史や特色を知り、愛着と誇りを持つ特色ある教育を充実させるとともに、町民すべてが涌谷の風土を学び、知るにより地域の誇りを発信できるまちづくりが求められています。

(4) 身近な生活基盤整備の推進

本町は、アンケート調査では約半数の町民が「住みやすい」と感じていますが、身近な生活基盤整備のニーズが高くなっており、住みやすい身近な生活圏を構築するために、道路・歩道整備や、公共交通・商業地の充実が求められています。また、農村環境と都市的な環境が調和した暮らしやすいまちとして生活環境の充実や景観の保全に加え、本町を災害に強いまちとするために、更なる治山治水や防災対策の充実が求められています。

(5) 住民と行政の協働

住民の価値観や生活様式の変化に伴い、住民のニーズは今後ますます多様化・高度化していくものと想定されます。しかしながら、それらのニーズに対して、行政だけではきめ細やかな対応に限界があり、行政と住民の各々が適正な役割分担の下で、協働してまちづくりを推進することが求められています。そのため、これからのまちづくりでは、住民や事業所等の発意により自ら行動するための環境づくりが必要となっています。一方、行政については、行政自ら町の外へ情報を発信し、問題意識の共有化や町の魅力等を伝える取り組みが求められています。



【浦谷町基本計画】

黄金花咲く交流の郷 わくや
— 自然・歴史を活かした健康輝くまち —

1

交流が豊かさ育む
まちづくり

1. 日本初の産金地や豊かな自然等を活かした観光交流ネットワークの強化を図ります
2. 地域の歴史文化資源の活用や情報発信を進めます
3. スポーツ・レクリエーション活動の振興により内外の交流を促進します
4. 地域資源を活かして地域間・国際交流を推進します
5. 「わくやブランド」の構築による農と食の発信を図ります
6. 新たな魅力を備えた商業・サービスの活性化を促進します
7. 富県・宮城の一翼を担う活力ある企業立地の促進を図ります

2

健康長寿に向けた
まちづくり

1. 誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように地域包括ケアシステムの構築を図ります
2. 日常的な健康増進・疾病予防の推進による健康長寿の実現を目指します
3. 国保病院が提供する、総合診療を中心に地域の医療機関との連携による安心な医療を確保します
4. 障害者が安心して暮らせるサービス、支援の提供を行います
5. 健康保持と社会保障を担う安心の制度運用に取組みます

3

子どもの成長支える
まちづくり

1. 就労支援を通じた次代を担う若者の自立を支援します
2. 婚活活動や生活環境整備による若者の移住・定住を支援します
3. 保育サービスや放課後児童クラブなどによる子育て支援の充実を図ります
4. 誰もが自立して安定した家庭を築けるように、包括的な福祉の充実を図ります
5. 幼児から成人まで、人間性豊かな自立できる人を育てる教育活動を推進します
6. 地域を知って地域への愛着を育てるふるさと教育を推進します





まちづくりシンボルプロジェクト

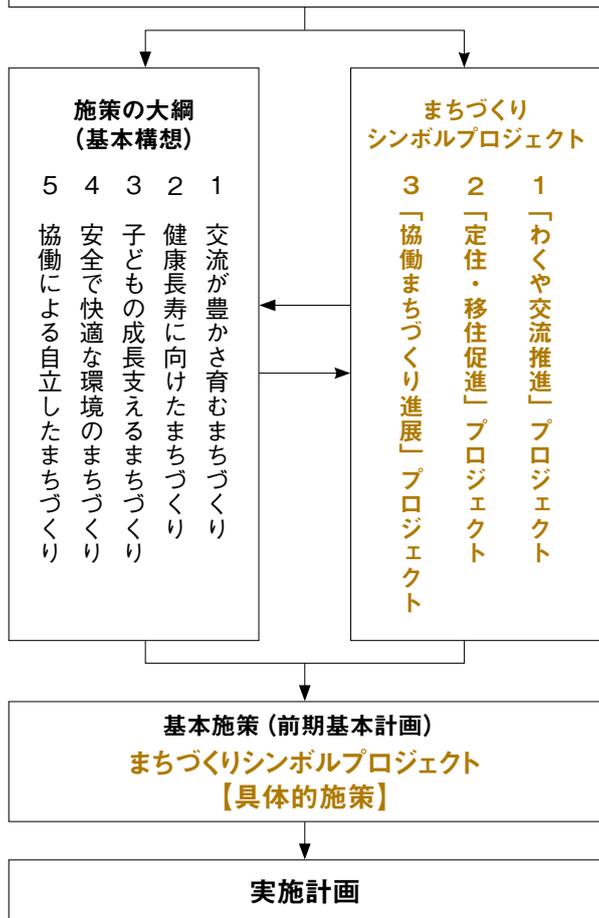
町の将来像「黄金花咲く交流の郷 わくや —自然・歴史を活かした健康輝くまち—」の実現に向けて、「わくや交流推進」「定住・移住促進」「協働まちづくり進展」の3つの「まちづくりシンボルプロジェクト」に取り組みます。

この3つの戦略的な「まちづくりシンボルプロジェクト」への取り組みにより、全国・世界に情報発信を行って交流を促進させ、住む人・訪れる人みんなが湧谷に愛着を持てるようなまちづくりを進めます。

まちづくりシンボルプロジェクトの位置付け

黄金花咲く交流の郷 わくや

—自然・歴史を活かした健康輝くまち—



5

協働による自立したまちづくり

1. 事業の選択と集中による効果的で効率的な行財政運営を推進する
2. 多様な媒体による行政情報の発信と町政懇談会などによる公聴活動を推進する
3. 行政と住民の協働によるまちづくりを推進する
4. 「大崎定住自立圏構想」による広域連携の推進を図る

4

安全で快適な環境のまちづくり

1. 魅力的で素晴らしい自然環境を保全・活用し、後世へ継承する
2. 自然・田園環境と市街地づくりが調和した計画的土地利用の推進を図る
3. 自然豊かな景観の保全・活用と水や緑など美しい環境の保全を図る
4. 住宅支援や空き家対策を中心とした住宅・宅地の整備を推進する
5. 適切な維持・管理による公園・緑地の確保を図る
6. 安全で安心な供給処理機能の充実を図る
7. 新時代に対応した、交通・通信・エネルギーの利便性向上を図る
8. 震災や水害に強いまちづくりに向けて、災害経験を活かした防災安全性の向上を図る
9. 誰もが安心して暮らせる生活安全性の確保を図る





宿泊施設 研修館

研修・学習・仲間づくりの場で、どなたでも気軽に利用することができる。宿泊施設のほかに、トレーニングルーム、ホール、浴室を完備。
涌谷町涌谷字中江南278
TEL0229-43-5200



わくや産直センター 黄金の郷

地元涌谷産にこだわり「手づくり」「安心・安全」をテーマに、豊富な野菜や果物、山菜、キノコや豆類、米など、四季折々の産品で溢れている。
涌谷町涌谷字中江南222 TEL 0229-43-6363
営業時間/9:30~18:00 駐車場/普通車150台
定休日/毎月、第2・4水曜日



● 麓公民館

● 麓白山小学校

麓岳山
麓峯寺

ののだけ幼稚園 ● 交番

● 石仏広場

● 宮城カントリークラブ

● 追戸横穴歴史公園

特別養護老人ホーム
ゆうらいふ

● わくや天平の湯

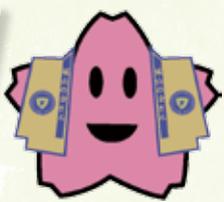
涌谷町町民
医療福祉センター

涌谷地区河川
防災ステーション

小倉山

のの岳駅

気仙沼線



涌谷町公式
観光PRキャラクター
「土成山の金さん」

町花に指定されている「さくら」の県内有数の観光名所であり、また、東大寺の大仏に使われた日本初の産金地であることを象徴した涌谷町の観光PRキャラクター。普段は、役場まちづくり推進課に勤務しています。

涌谷町 **ワクワク** マップ

日本初の産金地であり、伊達騒動ゆかりの地「涌谷」。
四季折々に魅力あふれる風景と歴史を尋ねてみませんか

・歳・時・記・

春 Spring

桜まつり 【4月中旬】

城山公園と江合川堤防にはソメイヨシノの他に、枝垂桜、山桜、泰山府君などが咲き誇る。

東北鞍馬競技大会 【4月第3日曜日】

階級ごとにそりを引き、120mのコースで2ヶ所の障害を越えるタイムを競う。

つるしびなまつり 【4月15日～5月5日】

篁岳山実相坊に1,000体以上のつるしびなが飾られる。

かたくりまつり 【4月上旬～中旬】

篁岳山篁峯寺境内北側にかたくりが群生、紫色の可憐な花を咲かせる。

夏 Summer

へら鮎釣り大会 【6月第3日曜日】

涌谷町釣り公園で開催され、毎年100人前後の方々が参加している。

採燈大護摩供 【7月第2土曜日】

「除災・招福・諸願成就」を祈願する炎の祭典。篁岳山石仏広場において浄行される。

伊達かっぱの里まつり 【7月第4土曜日】

八雲神社境内と、くがね創庫前ふれあい広場で行われるお祭り。

わくや夏まつり 【8月中旬】

各商店街と町が共に企画、開催する涌谷最大のまつり。イベントや花火、神輿などで賑わう。

秋 Autumn

秋の山唄全国大会

【11月第2週土・日曜日】

北海道から九州まで、全国から毎年多くの出場者が集う。優勝者は篁岳山篁峯寺に山唄を奉納する。

冬 Winter

白山祭(県重要無形文化財)

【1月第4日曜日】

御弓神事(流鏑)が行われ、稚児が矢を射てその年の天候を占う。

わくや発食の町民まつり

【2月第1土曜日】

生産者と消費者の交流と食育意識の高揚を図るおまつり。



町民バスの利用



通院、通学、お買い物に、便利で安全な町民バスをご利用ください。

運賃/どこまで乗っても定額料金で安心です。

大人の運賃100円 子どもの運賃50円

運休日/土曜日、日曜日、祝日、年末年始

涌谷ヒストリー

60 History

昭和30年7月	涌谷町・箕岳村合併、斉藤望氏が初代町長に就任、町議会議員49名でスタート
昭和32年11月	黄金山神社発掘、涌谷大橋完工
昭和34年4月	国民健康保険全町実施
昭和34年9月	黄金山産金遺跡が県指定重要文化財に
昭和35年8月	大相撲涌谷場所開催
昭和35年11月	役場新庁舎落成
昭和35年12月	自衛隊ジェット機が短台に墜落
昭和38年6月	ミスユニバース日本代表に涌谷高校出身の安藤矩子氏
昭和40年6月	ボクシング全日本バンタム級チャンピオンに涌谷町出身の山上哲也（本名木村昭）選手
昭和41年6月	東北アルプス涌谷工場が操業を開始
昭和42年4月	学校給食完全給食実施
昭和42年11月	涌谷中学校の日本庭園が緑化コンクールで全国一に
昭和42年12月	黄金山産金遺跡が国指定史跡に
昭和43年12月	見龍廟が県指定文化財に
昭和45年3月	長根貝塚が国指定史跡に
昭和45年4月	伊達安芸公300年祭
昭和46年9月	宮城カントリークラブがオープン
昭和48年11月	涌谷公民館落成
昭和49年4月	涌谷町立史料館がオープン
昭和53年6月	宮城県沖地震発生

昭和54年2月	涌谷農村勤労福祉センター落成
昭和54年8月	ワールドカップ陸上アジア代表に熊谷敏子氏
昭和55年1月	涌谷中央公園完工
昭和56年4月	江合川左岸特殊堤防完成
昭和56年6月	B&G海洋センタープールオープン
昭和57年3月	箕岳白山祭が県無形民俗文化財に
昭和60年3月	合併30周年、町民憲章・町木・町花制定
昭和60年11月	第1回秋の山唄全国大会開催
昭和63年11月	涌谷町町民医療福祉センター落成
平成3年6月	温泉掘削成功（毎分277ℓ・温度36℃）
平成4年11月	涌谷バイパス全線開通
平成6年7月	天平ろまん館オープン
平成7年10月	第5回東大寺サミット95inわくや開催
平成8年5月	江合川特殊堤防改修に伴い、桜を伐採・植栽し、桜並木の再生を図る
平成8年11月	涌谷町ホームページ開設
平成10年8月	サリナス市と国際友好都市協定締結
平成10年10月	わくや天平の湯オープン
平成11年4月	涌谷スタジアムオープン
平成15年4月	デンマーク王国ソロー市と国際友好都市協定締結
平成15年4月	高齢者福祉複合施設「ゆうらいふ」オープン
平成15年6月	涌谷町・小牛田町・南郷町合併協議会発足
平成16年12月	合併の是非を問う住民投票を実施し自立の道を選択
平成18年4月	涌谷町シルバー人材センター開所
平成23年3月	東日本大震災発生
平成23年11月	映画「つるしびな」公開
平成25年3月	大韓民国林川面と友好都市協定締結
平成25年4月	学校法人十文字学園と相互友好協力を締結
平成25年9月	幼保一元型施設さくらんぼこども園を開園
平成26年3月	山形県大石田町との友好交流協定締結
平成27年4月	新涌谷公民館が完工
平成27年4月	涌谷中学校と箕岳中学校の統合により新生涌谷中学校が開校

行政

地方分権が進むとともに、ますます町民のニーズも多様化します。その声を各種施策に反映し、町民と行政の協働によるまちづくりの展開を図っています。また行政組織を強化し、事業の選択と集中による効果的で効率的な行政運営の実現のため、組織体制の確立と職員の育成、情報化の推進などにとめていきます。



議会

議会は町から提案される予算や条例制定、町が締結する契約などの重要課題を審議決定する機関であり、町民を代表する13人の議員で構成されています。審議の場は定例会、臨時議会のほか常任委員会を設けて、より良い未来の町づくりに向けて積極的に活動し、町への提言を通して行政サービスの向上を図っています。



涌谷へのアクセス





町章のゆらい

「ワ」と「ク」を図案化して、「ワ」は町の大躍進の原動力たる町民の底知れぬ力をあらわし、「ク」は、町民の精神的な融和を表徴したもの。地は暗青紫、外側の輪は銀色、内側の輪は金色で、「ワ」はいぶし金です。(昭和33年9月制定)

町花「さくら」

町木「杉」



(昭和60年4月制定)

涌谷町町民憲章

緑濃い麓岳山系を仰ぎ
 清流江合迫の豊かな自然に育まれ
 祖先の輝かしい歴史遺産を受け継ぐ
 私たちは次代に引き継ぐ
 明るい郷土を築くために

- 一 みんながやすみやかに
- 一 温かい心のおれあいを深め
- 一 自然と文化を大切に
- 一 活気ある産業をおこし

笑顔のあふれるふるさとづくり
 につとめます。

わくやのいろは 涌谷町勢要覧 2016年3月31日発行

発行/涌谷町 〒987-0192 宮城県遠田郡涌谷町字新町裏 153-2 ☎0229-43-2111(代)
 企画・編集/涌谷町企画財政課 制作・印刷/川嶋印刷株式会社

